

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

葉月 月次祭挨拶

サルートン、こんにちは

葉月、月次祭を皆様とともに

に清々しく執り行わせていた

だきました。

暑い最中、参拝頂き誠に有

難うございました。

今期、三年間の再任をいた

だきました。

前期、三年間を振り返って

みますと、全ての行事を行う

事にも、皆様方のご協力が無

い事には何の行事も出来ませ

んでした。

皆様の声を傾聴し、皆様と

共に楽しく明るい、分苑活動

を更に努めさせていただきた

いと思っておりますので、ど

うぞ宜しく願います。

今回の役員改選に伴い総

務部長兼次長に瓜生秀明様・

祭務部長に飯田和彦様・財務

部長に近藤哲史様・宣教部長

に伊藤秀子様・直心会長と兼

任で川地貴子様の協力を得て
執行部の運営に当たっていき
ます。

八月六日から夏の祭典瑞
生大祭が天恩郷で執行され、
引き続き宣伝使新任者・昇進
者の辞令が交付されました。

名古屋分苑から新任者で
井藤良輔様・准宣伝使で小林
清人様に辞令が交付されまし
たが、お二人とも都合上欠席
されましたのでこの後、各辞
令をお渡しいたします。

宣伝使は神さまのご意志に
よって任命されるもので、現
界に肉体を持ちながら、神界
に通ずるご用にお仕えすると
いう喜びと栄光をいただくも
のです、一層の自覚と誇りを
もって既に宣伝使拜命された
方も、神教宣伝にご奉仕頂き
ますようお願いいたします。

直心会バザーに出品された
方々と販売に携わった方々お
疲れ様でした。

瑞生大祭諸祭典が終わつ
た八日の夕刻、九州地方を震
源とした地震、また翌日には
神奈川・静岡にも地震が発生
し、南海トラフの前兆ではな
いかと報道されました。今日
の祭典で大三災・小三災鎮静
祈願祝詞を奏上して頂きまし
たが、日直での朝拝時にも東
北地震発生後から奏上してお
ります。

しかし、愛知県も南海トラ
フの範囲内にあり、常に準備
が必要と思われれます。

八月十五日の神集祭最終
日には、第二次世界大戦万国
慰霊祭が午前十時から、神集
祭は午後六時半から夫々執行
され、ともに参拝をいたしま
した。

神集祭とは、玉鑑のなかで
神庭会議に「旧七月六日の晩
より七月十二日にわたり、綾
部の本宮坪の内にて行わる祭
典はもつとも大切な神事にて、
この一週間は、御三体の大神
様を初めまつり八百万の神々
様が御集会なされて、一年中
における世界の経緯をお定め

になるのである。すなわち地
上の規則を地の高天原でお定
めなさるのであるから、謹み
慎んで人民の願いごとなど決
して、してはならないのであ
る。」とお示しになっておりま
す。

八月二十四・二十五日、三
河本苑で葬祭研修会が開催さ
れます。

九月二十八・二十九日に祭
式講習会と葬祭研修会を分苑
で開催いたします。

東海教区の方々には案内を
出しますので一人でも多くの
方の参加をお願いいたします。
講師の方は、既に依頼をして
います。

また、十月二十
日、名古屋分苑秋の
大祭は神ノ倉分所

が大祭執行委員長で副が若葉
支部となっております。

既に執行委員長と話し合い
をして、派遣講師をこちらも
依頼しています。

本日は誠に参拝ありがと
うございました。コーランダ
ンコン



行事報告

●月始祭

八月三日（土）

参拝者	十九名
斎主	妹尾 正治
祭員	日比 達朗
祭員	天野 芳幸
進行	鈴木 克彦



● 月次祭
八月十八日(日)

参拝者三十九名

齋主	飯田 和彦
祭員	日比 達朗
祭員	堀 健太郎
裏方	堀 宜雄
典礼長	小林 清人
伶人	飯田 直美
伶人	岡田 幸子
伶人	長谷川美枝
伶人	伊藤恵美子
進行	石原 松生

● 瑞生大祭献金バザー
報告とお礼

皆様にご協力頂きました献金バザーですが、分苑と瑞生大祭にて開催させて頂きました。

このたびも、多くの品物の提供、カンパを頂き二十万二千八百四十円という大きな献金をさせて頂くことが出来ました。

心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

直心会長 堀 和子

お知らせ

香良洲神社

祈念碑除幕式・合同祭典係員募集

十月十八日(金) 午前十時半より香良洲神社で祈念碑除幕式と合同祭典が執行されます。

つきましては、名古屋分苑から五名、駐車場係と場内係のお手伝をすることになりました。ご奉仕できる方は、ご連絡ください。

総務 瓜生

行事予定

九月十一日(水)

全国一斉世界平和祈願

九月十五日(日)

月次祭・長寿感謝祭

午前十時半より

九月二十八・二十九日(土日)

祭式講習会・葬祭研修会

十月五日(土)

月始祭 午後一時半より

じいじの道草雑話

【掲示板】

妹尾 正治

令和六年二月十九日付けのスマイル新聞で、高齢者を元気づけている老人の記事が目が止まった。

犬山市に住む八十五才になる大岩幸一郎さんは、町内のゴミ集積場所に自費でフェン

スト掲示板を設置し、「老いを生き抜く応援歌」としてユニークな言葉を二週間おきに更新して掲示している。

ユーモアの中にも世の真理を突く言葉に、じいじも頷くばかりだ。

『人の悪口はうそでも面白いが、自分の悪口は本当でも腹が立つ』

『変えられないのは他人と過去、変えられるのは自分と未来』

まだまだ続く

『孤独を愛し、孤独を楽しもう！大勢の中の孤独より、一人きりの孤独の方が自由で気楽だ』

『昨日は過去、もう過去は二度と来ません。来るのは明日です、前を向いて歩こう』

2019年の6月から始めたと云うから、言葉は100近くの数となり、多くの人が元気づけられたに違いない、じいじも元気をもらった一人だ。

大岩さんの年齢にたどり着くには、まだ十年もある。

一句ひらめいた『さあやるぞ！、今からではなく明日から』？

これでは大岩さんの足元にも及ばないが、「二人でも元気づけられたら！一人でも笑顔になってもらえたら」を目標に、じい

じは老いを楽しんでいくぞ！



第七十五回大本歌祭にて、神ノ倉分所、石田和歌子様の献詠歌が木の花抄に選ばれました。おめでとうございます。

綾機平成りたる神機に香良洲神社に「おからすのかみ」祈念碑の建つ

